

保 健 衛 生 の 概 況

令和7年度

川西町保健センター

目 次

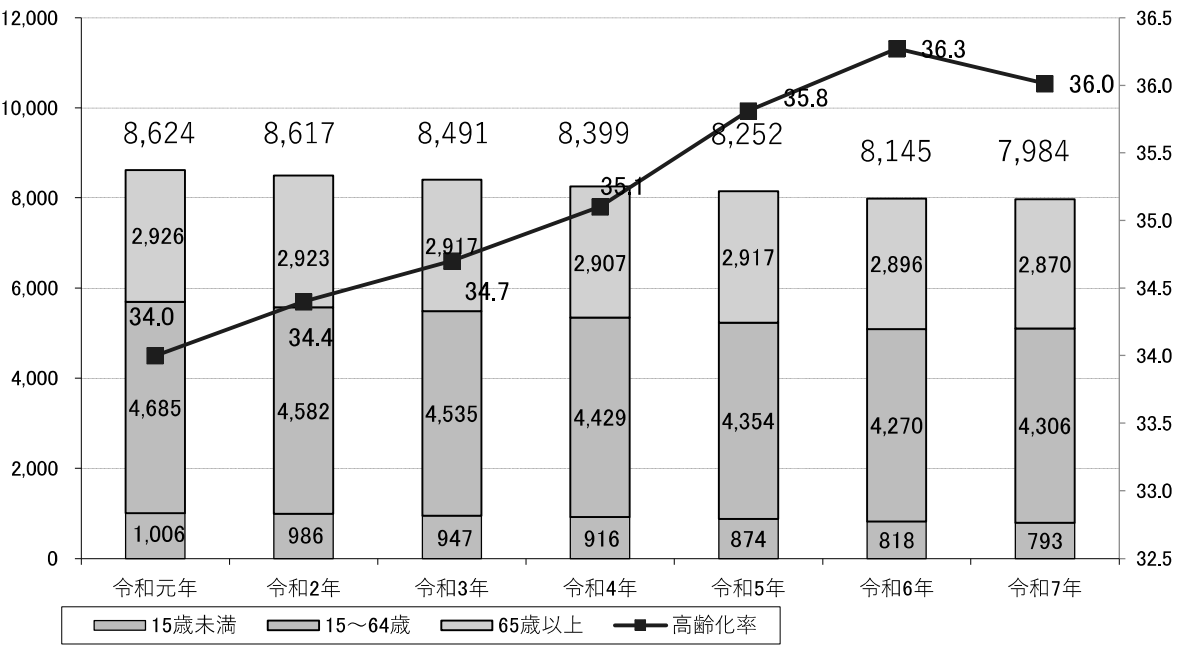
I. 川西町の概況	 1
1. 人口の動向	
2. 人口動態	
II. 成人保健事業	 3
1. 成人保健対策体系	
2. 健康相談	
3. 健康教室	
4. 健康講座	
5. 健康増進法による健康診査	
6. がん検診	
7. 健康づくり事業	
III. 予防接種事業	 9
1. 法律に基づく予防接種体系（川西町での実施形態）	
2. 定期予防接種実施状況	
3. 任意予防接種実施状況	
IV. 母子保健事業	 14
1. 母子保健事業（子育て支援）体系	
2. 近年の母子保健事業の主な取組と背景	
3. 事業報告	
(1) 妊娠届出・母子健康手帳交付	
(2) 妊婦健康診査	
(3) 新生児聴覚検査聴覚検査	
(4) 産婦健康診査	
(5) 訪問事業	
(6) 出産・子育て応援ギフト	
(7) 乳幼児健康診査	
(6) 健康教室	
(7) 産後ケア事業	
(8) 母子手帳アプリ（母子モ）	
(9) 小児科・産婦人科オンライン相談	
(10) 不妊治療費用助成	

I. 川西町の概況

※川西町住民基本台帳より（各年 10 月 1 日現在）

1. 人口の動向

(人) 図 1 総人口及び年齢 3 区分別人口の推移 (%)



2. 人口動態

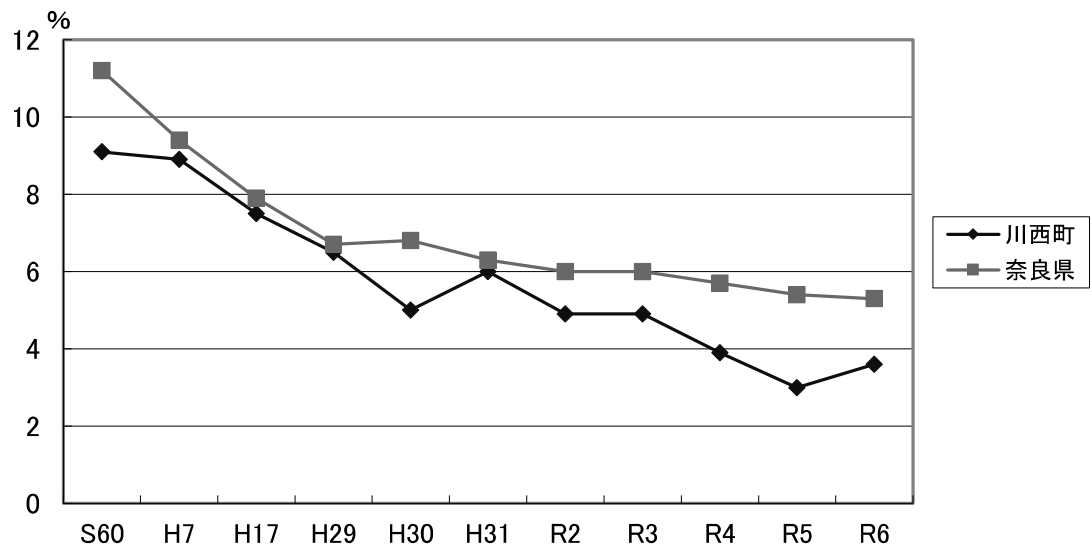
		出 生		死 亡		乳児死亡		新生児死亡	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
R2	川西町	39	4.9	92	11.5	0	0	0	0
	奈良県	7831	6.0	14678	11.2	13	1.7	6	0.8
R3	川西町	39	4.9	116	14.6	0	0	0	0
	奈良県	7751	6.0	15573	12.0	17	2.2	7	0.9
R4	川西町	30	3.9	106	13.6	0	0	0	0
	奈良県	7315	5.7	17166	13.3	16	2.2	6	2.2
R5	川西町	23	3.0	117	13.3	0	0	0	0
	奈良県	6943	5.4	16972	15.2	14	2.0	5	0.7
R 6	川西町	27	3.6	104	13.9	0	0	0	0
	奈良県	6697	5.3	17379	13.7	22	3.3	7	1.0

(奈良県人口動態統計より)

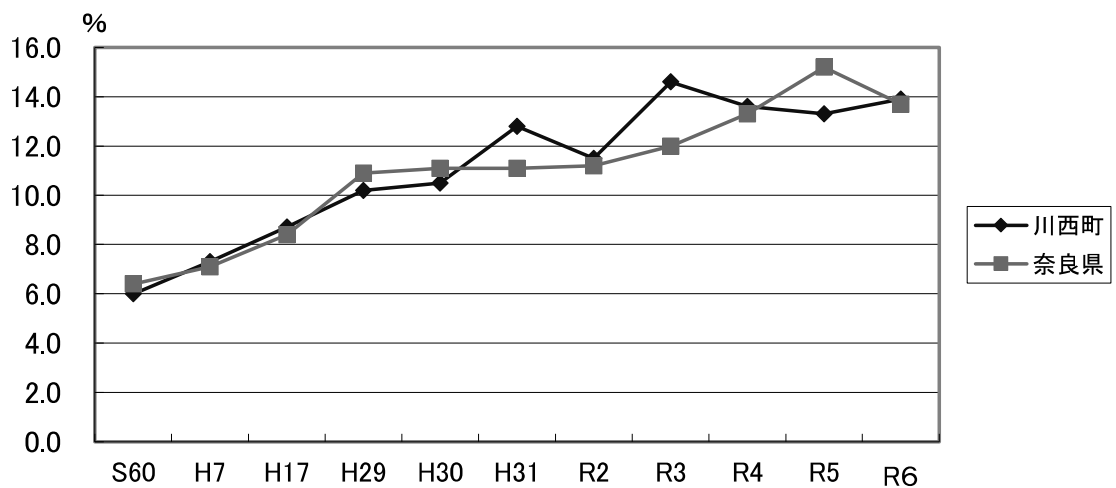
※出生率・死亡率＝事件数／人口×1,000

※乳児（新生児）死亡率＝乳児（新生児）死亡数／出生数×1,000

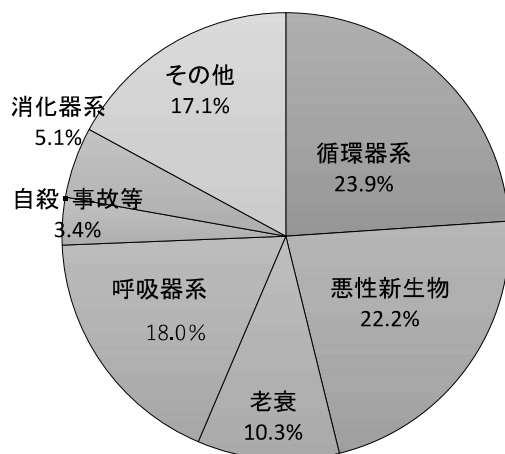
(1) 出生率の年次推移



(2) 死亡率の年次推移



(3) 川西町の死因別死亡状況 (R6 年)



疾患名	人数	率(%)
循環器疾患（心疾患、脳血管疾患等）	28	23.9
悪性新生物	26	22.2
老衰	12	10.3
呼吸器系疾患（肺炎等）	21	18.0
自殺・事故等	4	3.4
消化器系疾患	6	5.1
その他	20	17.1
計	117	100.0

II. 成人保健事業

1. 成人保健対策体系図

	20歳代	40歳代	60歳代～
検診		胃がんバリウム検診（40歳～）＊胃内視鏡検診（50歳～） 大腸がん検診（40歳～） 肺がん検診（40歳～）	子宮頸がん検診（20歳～） 乳がん検診（40歳～） 結核検診（65歳～）
健康増進法による 健康診査		肝炎ウイルス検診（40歳及び一度も検査を受けていない者） 歯周病検診（20、30、40、50、60、70歳） 健康診査（40歳以上の生活保護費受給者）	
健康相談		病態別健康相談（生活習慣病予防） こころの健康相談（精神保健）	
各種教室		健康教室（男性の料理教室） 健康講座	
訪問指導		訪問指導（健康に関する保健指導、検診事後指導等）	
自主活動支援及び サポーター講習 （健康かわにし21推進）		さわやかなのびのび会（運動グループ） 健康サポーター活動 健康サポーター養成講座（1回／3年）	
健康かわにし21計画 の推進		健康づくり推進協議会 健康かわにし21キャンペーン	
特定健診・特定保健指導 （国民健康保険加入者対象）		特定保健指導（メタボリックシンドローム該当者・予備群）	

2. 健康相談

健康に関する個別相談をおこない、正しい知識や必要な情報を提供する。

①健康相談

単位：実人数

	R6	R7
～64歳	3	0
65歳～	8	6
合計	11	6

②結果個別相談会

単位：実人数

	R6	R7
～64歳	18	22
65歳～	13	26
合計	33	48

前年度より特定健診結果個別相談会を実施しており、令和7年度は「健診結果について相談しやすい」との参加者からの好評な意見もあり、参加者数が増加した。国保担当課および介護予防担当課と連携し、フレイル予防に関する集団健康教育を実施した後、個別に健診結果の説明と健康に関する保健指導を行った。集団健康教育と個別相談を組み合わせることで、健診結果を自身の健康状態や生活習慣と結び付けて理解し、健康づくりに取り組むきっかけとなるよう支援した。今後も参加者の反応や意見を踏まえながら内容の充実を図り、関係課と連携して継続的に実施していく。

③こころの健康相談

単位：人

	R6	R7
実人数	11	23
延人数	97	121

(R7地域保健事業報告)

心の健康相談数は前年度と比べると実人数・延べ人数ともに増加している。相談内容は、ひきこもり、うつ病等の精神疾患に関する相談のほか、親子関係や家庭内の問題、生活上の困りごとなど、複合的な課題を抱えるケースが多くみられた。頻回に相談がある方については、他機関にも同様の相談を行っている場合があるため、関係機関と情報共有を行いながら、支援方針を検討している。今後も、訪問看護事業所および相談支援事業所との月1回のケース連絡会を継続し、支援を要するケースの情報共有や支援方針の検討を行うことで、関係機関との連携強化を図る。

3. 健康教室

生活習慣病予防のため、必要な情報を提供し健康意識を高める。

男性の料理教室（年間2回）

単位：人

	R6	
～64歳	0	0
65歳～	8	11
合計	8	11



男性の料理教室は定員を上回る申込みがあり、参加者からも好評を得た。参加者には、普段から調理を行っている方から、これまでほとんど調理経験のない方までおり、食生活や調理に関する生活スタイルは多様であった。参加者の約9割が後期高齢者であったことから、フレイル予防を中心に、日常の食事で手軽に取り入れられる工夫や、共食の大切さについて健康教育を実施した。調理実習を通して、栄養バランスの取れた食事づくりを学ぶ機会となるとともに、参加者同士が交流し、つながりやコミュニケーションを深める場にもなった。

4. 健康講座

単位：回

R6	R7
1	1



子育て世代を対象に、幼稚園において健康講座を実施した。歯科衛生士からは「親子で知っておきたい歯とお口の話」として、子どものむし歯予防や口腔の健康づくりについて、保健師からは「がん検診のお知らせ」として、がん検診の必要性や受診方法について情報提供を行った。

子育て世代が身近な幼稚園で健康に関する知識を得る機会となり、親子の健康づくりや、がん検診受診への関心を高めることにつながった。今後も毎年テーマを変えながら、子育て世代のニーズに応じた健康教育を継続して実施していく。

5. 健康増進法による健康診査

①肝炎ウイルス検診

肝炎ウイルスの感染の有無を調べて肝炎の早期治療につなげる。

単位：実人数

年度	受診者数	陽性者数	
		C型肝炎	B型肝炎
R6	38	0	0
R7	32	0	0

②生活保護費受給者健康診査

医療保険に加入していない40歳以上の生活保護費受給者を対象に特定健診、特定保健指導に準ずる内容で健康診査および保健指導をおこなう。

単位：実人数

年度	対象者数	健診受診者	保健指導者
R6	91	1	0
R7	89	1	0

③歯周病検診

歯や口腔内の健康意識を高め、歯周病等を早期に発見・治療することで、歯の喪失予防につなげることを目的に、健康増進法に基づく20、30、40、50、60、70歳を節目年齢者を対象として歯周病検診を実施している。

単位：実人数

年度	対象者数	受診者	要精検者
R6	584	25	25
R7	510	22	20

6. がん検診

集団検診（胃・肺・結核・大腸・肝炎ウイルス・子宮・乳）

○胃バリウム検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上
R5	2,067	264	83	4.8	4.0	6	3	2.3	3.6	1
R6	2,070	225	86	4.1	4.2	11	4	4.9	4.7	0
R7	2,076	216	61	4.0	3.0	5	0	2.3	0	0

受診者数は緩やかに減少。要精密検査は近年の中では多く、精密検査の結果ががんではなかったが、ポリープや委縮性胃炎・胃潰瘍など9割が他の疾患であった。

○肺がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上
R5	3,158	350	146	6.3	4.6	1	1	0.3	0.7	0
R6	3,106	315	112	5.7	3.6	6	5	1.9	4.5	1
R7	3,093	327	112	6.0	3.6	3	0	0.9	0	0

* 定期の結核健康診断は65歳以上の方を対象に実施。

○大腸がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上
R5	3,158	613	290	11.0	9.2	26	15	4.2	5.2	2
R6	3,106	507	196	9.2	6.3	16	7	3.2	3.6	1
R7	3,093	488	174	9.0	5.6	34	11	7	6.3	0

町の検診を利用する方は70歳以上の方が多い傾向がある。

○乳がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上
R5	1,600	170	105	5.7	6.6	5	4	2.9	3.8	0
R6	1,576	203	143	6.9	9.1	9	8	4.4	5.6	1
R7	1,569	180	120	6.2	7.6	7	4	3.9	3.3	0

秋に受診再勧奨を行ったものの、前年度に比べ受診者数が減少した。

○子宮がん検診

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	20～69	20以上	20～69	20以上	20～69	20以上	20～69	20以上	20～69	20以上
R5	2,238	185	139	5.2	6.2	4	4	2.2	2.9	0
R6	2,192	176	134	5	6.1	3	3	1.7	2	0
R7	2,165	199	150	5.7	6.9	2	2	1.0	1.3	0

秋に受診再勧奨を行った結果、受診者及び受診率が増加。若い世代への子宮頸がん検診の啓発として、「はたちの集い」で啓発リーフレットを配布した。また、子育て中の保護者を対象に町立の幼稚園・小学校向けに婦人科検診の受診案内リーフレットを配布した。

医療機関での検診

①前立腺がん検診（任意型がん検診）

単位：実人数

R6	R7
3	4

②胃内視鏡検診

50歳以上を対象とし、2年に1回の助成とする。胃バリウム検診との重複受診はできない。

単位：実人数，％

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	50～69	50以上	50～69	50以上	50～69	50以上	50～69	50以上	50～69	50以上
R5	2,067	11	6	0.4	0.5	0	0	0	0	0
R6	2,070	10	7	0.4	0.6	2	2	20	28.6	0
R7	2,076	12	7	0.3	0.3	0	0	0	0	0

胃内視鏡検診は平成29年度から始まり、ここ数年は受診者は横ばい。

7. 健康づくり事業

健康かわにし21（第2次）計画に基づいて健康づくりを推進している。

①健康かわにし21キャンペーン（ベジチェック）

単位：延人数

	R6	R7
回数	1	1
人数	94	105

文化祭で、「日頃の食生活の見直しや改善」「健康づくり」についての啓発を目的に、ベジチェックを実施した。ベジチェック後に、測定数値と問診票を元に管理栄養士が栄養指導や栄養相談を実施した。

②健康づくりウォーキング

単位：延人数

	R6	R7
回数	2	2
人数	38	61

前年度に比べ実施回数を増やし、年2回開催した。

健康サポーターが主体的に企画から運営まで取り組んでくださった。

③健康サポーターの活動（R7）

健康かわにし21計画の推進に協力していただいているボランティアの活動である。R6年度も母子保健分野から成人保健分野まで幅広く活動をしていただき、地域の健康づくりにご協力いただいた。

参加人数	26人
活動回数	25回
活動内容	・健康ウォーキングの企画運営 ・乳幼児健診サポート（受付等） ・がん検診啓発活動 ・ベジチェック測定サポート ・健康サポーター 健康講座

④自殺対策（R7）

	R7
回数	1
人数	32

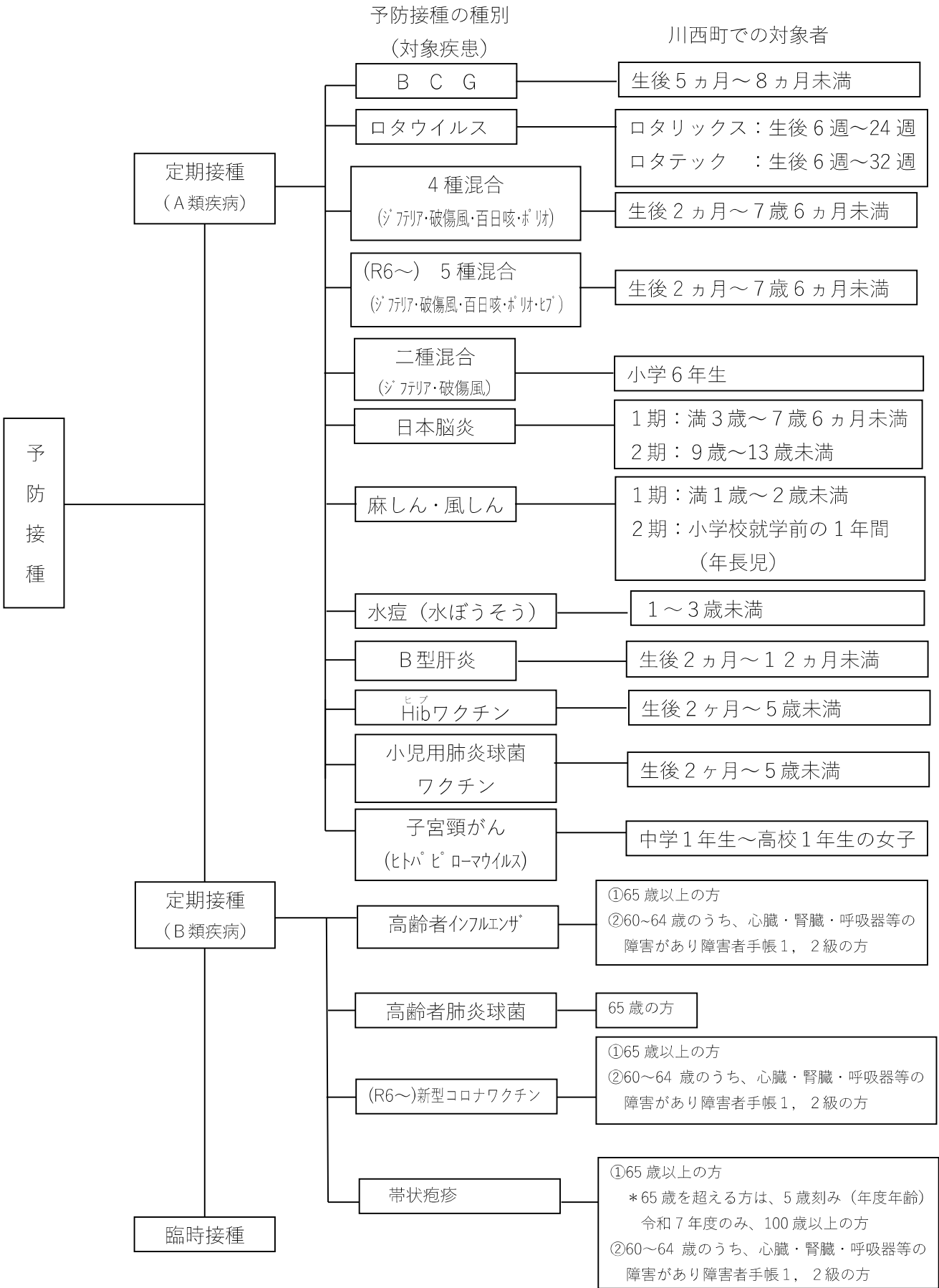
令和5年度から「健康かわにし21」計画と「いのち支える川西町自殺対策行動計画」を一体的にした計画を策定し自殺対策に取り組んでいる。

その一環として、川西町民生児童委員と健康サポーターを対象に、ゲートキーパー養成研修を開催し、住民の心身の変化に容易に気づき、安心して相談を受け止め必要に応じて適切な支援につなげていけるよう、理解と協力を得る研修を行った。

III. 予防接種事業

1. 法律に基づく予防接種体系（川西町での実施形態）

令和 8 年 3 月 3 1 日現在



2. 定期予防接種実施状況

(1) A類疾病 令和7年度接種者数

予防接種名			対象年（月） 齢	接種回数	接種者数
BCG(結核)			生後5ヵ月～8ヵ月未満	1回	20
ロタウイルス			ロタリックス：生後6週～24週	2回	10
					12
			ロタテック：生後6週～32週	3回	7
					7
					9
四種混合(DPT-IPV) ジフテリア・百日咳 破傷風・ポリオ	1期	初回	生後3ヵ月～7歳6ヵ月未満	3回	0
					0
					0
	追加		1回	4	
令和6年4月1日から四種混合がヒブワクチンを含めた五種混合となり、生後2か月以降の児は五種混合ワクチンに移行していったため、新たな接種者はいない。					
五種混合(DPT-IPV-Hib) ジフテリア・百日咳 破傷風・ポリオ・ヒブ	1期	初回	生後3ヵ月～7歳6ヵ月未満	3回	19
		追加	1回	23	
二種混合(DT)		2期	小学6年生	1回	56
日本脳炎	1期	初回	3歳～7歳6ヵ月未満	2回	28
					34
		追加		1回	48
	2期		小学4年生	1回	50
	※ 1期	初回	※特例対象者 ・平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの20歳未満の者 ・平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの13歳未満の者	2回	0
					0
		追加		1回	0
	※2期			1回	1
	※平成23年5月より特例対象者は、1期3回と、9歳以上に2期1回の計4回の接種を20歳までの間に定期接種として受けることが可能になった。				
	麻しん風しん（MR）	1期	1歳～2歳未満	1回	26
2期		年長児（小学校就学前の1年間）	1回	50	
水痘			1歳～3歳未満	2回	25
					24
B型肝炎			生後2ヵ月～1歳未満	3回	18
					20
					24
ヒブワクチン	○生後2ヵ月～7ヵ月未満(全4回) ○生後7か月～1歳未満(全3回) ○1歳～5歳未満(全1回)			1回目	0
				2回目	0
				3回目	0
				4回目	1
	令和6年4月1日からヒブワクチンが五種混合に含まれるようになり、生後2か月以降の児は五種混合ワクチンに移行していったため、新たな接種者はいない。				

予防接種名	対象年（月） 齢	接種回(数)	接種者数
小児用肺炎球菌	○生後2ヵ月～7ヵ月未満(全4回)	1回目	18
	○生後7か月～1歳未満(全3回)	2回目	19
	○1歳～2歳未満(全2回)	3回目	20
	○2歳～5歳未満(全1回)	4回目	26
子宮頸がん（HPV）	中学1年生～高校1年生相当(女子)	2～3回	13
			11
			8
	キャッチアップ対象者 (平成9年4月2日～平成17年4月1日生まれの女性)	2～3回	0
			3
			12

※子宮頸がん（HPV）ワクチンは、平成25年6月から積極的な勧奨を一時的に差し控えられていたが、令和3年11月に専門家の評価によりHPVワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、原則、令和4年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行うこととなった。

（２）B類疾病 過去５年間の経年接種者数

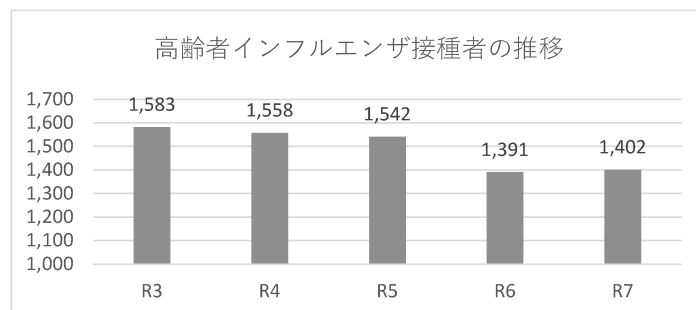
高齢者インフルエンザ

対象者	①満65歳以上の者 ②満60歳以上65歳未満の者で心臓、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者（医師が該当すると認めた者/身障手帳１・２級相当）
-----	--

【高齢者インフルエンザ予防接種接種者数の５年間の推移】

(人)

年度	人数
R3	1,583
R4	1,558
R5	1,542
R6	1,391
R7	1,402



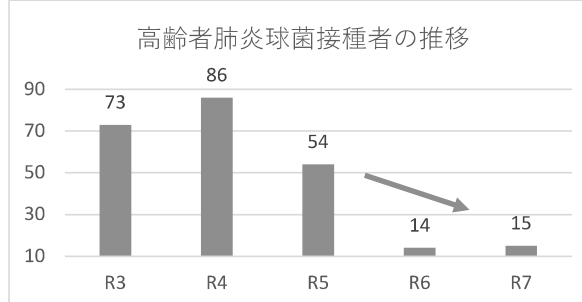
高齢者肺炎球菌

対象者	①65歳の者 ②高齢者インフルエンザの対象者②と同様 ③年度中に70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる者 (R1～R5年度経過措置)
-----	---

【高齢者肺炎球菌予防接種接種者数の6年間の推移】

(人)

年度	人数
R3	73
R4	86
R5	54
R6	14
R7	15



H26年度～５年間の経過措置で定期接種化されたが、再度延長となり、既接種者は対象とならないため、大幅減となっている。
 ※R5年度をもって、経過措置が終了し、R6年度からは接種対象者が65歳のみとなる。

新型コロナワクチン

対象者	①65歳の者 ②高齢者インフルエンザの対象者②と同様 ※新型コロナワクチンは、令和6年10月から定期接種となった。
-----	---

【新型コロナワクチン予防接種接種者数】

(人)

年度	人数
R6	368
R7	152

带状疱疹

対象者	①65歳の者 ②高齢者インフルエンザの対象者②と同様 ③年度中に70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳以上になる者（令和7年度のみ100歳以上、以降100歳）
-----	--

【带状疱疹予防接種接種者数】

(人)

令和7年度開始

年度	組み換え		生
	1回目	2回目	1回目
R7	80	76	70

3. 任意予防接種実施状況

任意予防接種は、予防接種法に基づかない予防接種であり、医師との相談によって判断し接種する仕組みになっており、定期予防接種と違って行政が推奨しているものではないが、使用するワクチンは厚生労働省によって薬事法上の許可がなされているものである。

そのため接種にかかる費用は全額自費であり、負担軽減を図るため接種費用の助成を行っている。

(1) 任意予防接種 過去5年間の経年接種者数

妊婦等風しん抗体検査ワクチン接種費用助成事業

目的	妊娠期に感染した場合、先天性風しん症候群に罹患した児が生まれる可能性があることから妊婦とその子供を風しんから守るため風しんワクチンの接種を推奨し、その費用を一部助成する。
対象者	①妊娠予定又は妊娠を希望する女性 ②妊婦の配偶者及び同居家族 ※ワクチン接種の対象者は、抗体検査の結果抗体価が低値の者
助成内容	風しん抗体検査費用の1/2(上限3,000円) 風しんワクチン又は麻しん風しん混合ワクチン接種費用の1/2(上限5,000円)

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	抗体検査	ワクチン接種
R3	0	0
R4	2	2
R5	1	0
R6	0	2
R7	0	2

・抗体検査については、奈良県も独自で助成事業を実施している。
・本町においては、県の助成対象にならない者、また県の助成事業で抗体検査を実施した者のうち、抗体価が低く、ワクチン接種を行った者に対し一部助成を行う。

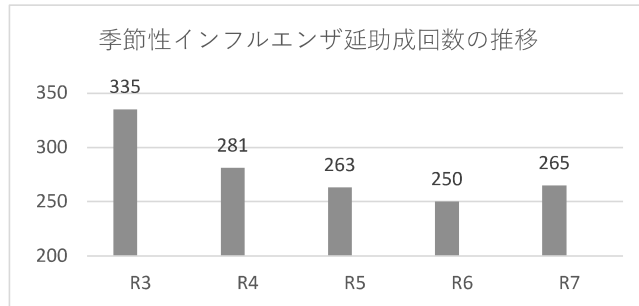
季節性インフルエンザ接種費用助成事業

目的	子どもの季節性インフルエンザ予防接種を希望する者に対し、接種費用の負担を軽減し受けやすい体制を整備するとともに、子ども個人のインフルエンザ発病又はその重症化を予防する。
対象者 助成回数	生後6ヵ月～小学6年生：2回 中学3年生・高校3年生：1回
助成内容	①償還払い方式：接種費用を全額負担後、保健センターにて還付手続きを行う ②助成券発行方式：事前に保健センターにて助成券発行を受け、医療機関で支払時に助成額を差し引いた額で支払う（町内医療機関のみ）

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	助成者数	延助成回数
R3	264	335
R4	200	281
R5	213	263
R6	189	250
R7	190	265



任意ワクチン接種費用助成事業

目的	子どもの任意予防接種（おたふくかぜ）を希望する者に対し、接種費用の負担を軽減し受けやすい体制を整備するとともに、その疾患への罹患又は重症化を予防する。
対象者 助成回数	おたふくかぜ：1歳～5歳で1回
助成内容	おたふくかぜ：接種費用の1/2（上限3,000円/回）

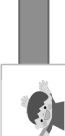
【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	人数
R3	20
R4	32
R5	17
R6	24
R7	16

IV. 母子保健事業

1. 母子保健事業体系図（母子対象予防接種）

	妊娠前	妊娠期	出産・乳児期	幼児期	学童期・思春期
健康 診査	妊婦健康診査 妊婦歯科健診 新生児聴覚検査 1か月健康診査 産婦健診 （出産2週間後・1か月後） 4・5か月健康診査 1歳6か月健康診査 2歳歯科健康診査 3歳6か月健康診査				
教室	ママ・パパ教室 赤ちゃんと体操教室 離乳食教室 歯みがき指導 （町内幼稚園・保育園・こども園） キッズからだ・あそび教室 （令和8年度より、子育て講座開始予定） 親子クッキング（幼児） 親子クッキング（小学生）				
訪問	妊婦訪問 赤ちゃん訪問 未熟児訪問指導 養育支援訪問 産後ケア （訪問型母乳相談・ デイスーパービス・ショースタレイ） 母子手帳交付 妊婦のための支援給付 （妊娠時・出産後に各5万円） 10か月相談 （健康診査に変更予定：令和8年度から）				
相談・ 扶助 他	不妊治療費助成事業 妊娠判定受診料助成事業 随時：電話相談・乳幼児相談（育児相談・栄養相談・発達相談） ※保健師・助産師・栄養士・臨床心理士・作業療法士等が対応） 巡回相談（臨床心理士）：町内幼稚園・保育園・こども園・小学校 母子手帳アプリ（母子モ） オンライン相談（Kids Public） 				
	         				
予防 接種	RSウイルス（妊婦）  ロタウイルス B型肝炎 小児の肺炎球菌感染症 5種混合 BCG 麻疹風しん 水痘 インフルエンザ（任意接種：一部費用扶助）（乳幼児・小学生は2回、中学生・高校生相当1回） みずぼうそう（任意接種：一部費用扶助） 日本脳炎 ヒトパピローマウイルス感染症 （小学校6年生～高校1年生）				

2.近年の母子保健事業の主な取組と背景

平成27年度

北欧で行われている”ネウボラ事業”を知り川西町版としての展開を検討

- ・庁内で子育て支援に携わる職員での学習会を開催（以降毎年度開催）
- ・先進地事例を参考に、次年度に向けた事業展開案をまとめる
- ・**子育て支援ハンドブック**と**子育て支援体系の概要**を作成

妊娠届出後～出産までの期間
で関わる機会が少なかったこ

平成28年度

子育て世代包括支援センター（母子保健型）設置に向けた検討

- ・相談室（ネウボラルーム）の設置
- ・産前産後サポート事業として、**妊婦全戸訪問**と**母乳相談助成事業**の開始

先進地視察（和光市）

平成29年度

子育て世代包括支援センター（母子保健型）設置

- ・セルフプランと支援プランの作成
- ・赤ちゃん体操教室の開始
- ・1歳バースデー訪問の開始

時期に応じて利用者が適切なサービスを選択
するための支援と要支援者に対する関係者間
の支援内容の統一

平成30年度

妊娠期～乳幼児期にかけての切れ目ない支援の充実

- ・**産後ケア事業（宿泊型・通所型）**の開始
- ・子育て支援部門（基本型）利用者支援員との連携

産後不安定になりやすく虐待リスクも高ま
るこの時期に、母児が心身ともに安定して
過ごし、セルフケア能力を高める場を確保

令和元年度

- ・妊婦個別歯科検診が無償化

令和2年度

- ・母子手帳アプリ(母子モ)を導入

令和3年度

- ・小児科・産婦人科オンライン相談を導入

令和4年度

- ・出産子育て応援ギフトの開始、伴走型相談支援の充実

令和5年度

- ・産後ケア事業の充実（宿泊型の自己負担金の改変）

令和6年度

こども家庭センター設置（児童福祉機能と母子保健機能を維持し、より包括的な支援を行う機能設置）

- ・子育て世帯訪問支援事業（新規）の開始

令和7年度

- ・妊婦のための支援給付金開始（子育て応援ギフトからの変更）

3. 事業報告

(1) 妊娠届出・母子健康手帳交付

妊娠届出時に保健師が面談を行い、その後アセスメントを行って支援の方針を決定している。

①妊娠届出状況(R7届出分)

単位：人(転入妊婦除く)

妊娠週数	満11週以内	満12～19週	満20～27週	満28週～	合計
人数	35	1	1	0	37

②初・経産別年齢区分(R7届出分) 単位：人

妊婦の年齢	初産婦	経産婦
～19歳	2	0
20～24歳	1	0
25～29歳	4	5
30～34歳	5	13
35～39歳	5	5
40歳～	0	0
合計	17	23



③最近5年間の妊娠届出者数の推移

単位：人

年度	R3	R4	R5	R6	R7
届出者数	40	32	39	23	37

出生数は年々減少傾向にある。妊婦年齢は、30歳代が圧倒的に多い。令和7年度、妊娠届出週数が27週（妊娠7ヵ月）で初診となる方や20歳未満の妊婦など、妊娠届出時からこども家庭センターとして要保護児童対策協議会も含めた連携が必要な対象者もいる。

(2) 妊婦健康診査

H10年度から妊婦健診は地方交付税措置されており、R7年度からは11万円分補助を行っている。

①最近5年間の妊婦健診実施者数の推移

単位：人

	R3	R4	R5	R6	R7
受診実人数	65	54	56	55	47
受診延人数	492	324	370	419	294

(地域保健・健康増進事業報告)

②妊婦歯科検診

集団検診（年3回）、個別検診（通年）で実施している。令和元年度より個別も無償化。

単位：人

	R3	R4	R5	R6	R7
集団	5	4	1	1	1
個別	10	9	8	5	12
妊娠届出数	40	32	39	23	37
受診率	37.5%	40.6%	23.1%	26.1%	35.1%

妊婦が減少し、個別・集団ともに受診者は減少している。就労妊婦は、集団より個別で医療機関受診の歯科健診を利用される。妊婦歯科健診受診券（川西町補助）を利用せず、町外・県外歯科医院で妊婦歯科健診を受けている妊婦もいる。4ヵ月健診で妊婦歯科健診の受診状況は聞き取りを行い、集計を行っている。

(3) 産婦健康診査

	R6	R7
受診実人数	28	19
受診延人数	47(内、償還4)	32

単位：人

(4) 不妊治療費の一部助成

	R6	R7	単位：人
助成実人数	3	4	
助成延人数	3(内、一般2、生殖1)	7(内、一般3、生殖4※)	

※保険適用治療3、先進医療1

(5) 訪問事業

全戸への訪問は新生児（乳児）がH15年度～、妊産婦はH28.10月～行っている。令和7年度は育児支援が必要な産婦への訪問数が増えている。

①妊産婦・乳幼児訪問者数の推移・赤ちゃん訪問

単位：人

	妊婦		産婦		新生児		未熟児		乳児		幼児	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
R3	37	37	40	42	27	29			16	18	2	2
R4	24	29	29	41	28	28			12	12	0	0
R5	22	22	22	29	21	22			4	6	0	0
R6	24	24	26	46	25	25			8	20	0	0
R7	19	24	21	35	20	20	1※	1※	7	11	0	0

※令和7年度から奈良県市町村事業実績に基づき未熟児の実績を計上

(奈良県市町村事業実績報告)

【赤ちゃん訪問（再掲）】 新生児・乳児訪問のうち出生後初めての訪問は、赤ちゃん訪問としての情報提供・保健指導を行なっている。

	R3	R4	R5	R6	R7
件数	40	28	22	27	21

注意：赤ちゃん訪問は、家庭訪問数のため多胎の場合でも、1件となる。

②養育支援訪問者数

若年妊婦や産後うつ等により子育てに対して不安を抱える産後間もない時期の養育者がいる家庭等を対象として、育児の援助や相談・指導を行っている。H24年度～開始。

	R3	R4	R5	R6	R7
実人数	0	0	0	1	4
延人数	0	0	0	11	19

単位:人

③1歳バースデー訪問者数

平成29年9月より開始。10カ月児相談から1歳6カ月児健診までの間に関わる機会となっている。

	R3	R4	R5	R6	R7
実人数	2	0	0	0	1
延人数	2	0	0	0	1

単位:人

妊婦訪問や赤ちゃん訪問は、ほぼ全数訪問を行っている。令和7年度の養育支援訪問は、若年妊婦・妊娠届出が遅かった妊婦等に専門的支援として実施した。

(6) 妊婦のための支援給付（令和7年3月までは、「子育て応援ギフト」として妊婦一人当たり5万円×2回給付していた。）

令和7年4月より「妊婦のための支援給付」となり、妊娠期から出産・子育てまで一貫して伴走型相談支援と共に給付を行っている。給付は、妊娠届出時に5万円と出産後に5万円支給。相談支援は、妊娠届出時

	R5	R6	R7
1回目（妊娠届出時）	30	28	30
2回目（出産後）	23	23	21

単位：人

(7) 乳幼児健康診査

母子保健法第12条に基づき、1歳6カ月児健診・3歳半健診を実施している。同法13条に基づき4,5カ月児健診、10カ月児相談と2歳児歯科健診を全員対象に実施している。

当初の健診予定日に来れない場合は、別日を提案しできるだけ受診につなげている。未受診者へは自宅や保育園への訪問、来庁により児の状況を把握している。

①新生児聴覚検査

医療機関にて実施

	R7
受診者数	18

単位：人

②1カ月児健診

医療機関にて実施

	R7
受診者数	12

単位：人

③4,5カ月児健診(年間6回)

最初の集団指導として、図書館職員より本を通した乳児期から親子のコミュニケーションの大切さや保健師より虫歯予防等についての話を行い、地域の相談員である主任児童委員の紹介を実施。

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

	R3	R4	R5	R6	R7
対象者数	35	35	27	25	20
受診者数	35	34	27	25	20
受診率(%)	100%	97.1%	100%	100%	100%

(地域保健・健康増進事業報告)

健診後の支援が必要な方の理由としては、体重増加に関することが多く、定額や視線など発達に関すること、股関節に関することが挙げられている。

④10カ月児相談(年間4回)

4,5カ月児健診～1歳6カ月児健診の間の全数把握の機会としており、発達の相談とともに離乳（食）に関する相談が多い時期である。（令和8年度より10カ月児健診として実施する予定）

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

	R3	R4	R5	R6	R7
対象者数	38	42	29	28	26
受診者数	38	42	28	27	25
受診率(%)	100%	100%	96.6%	96.4%	96.2%

(地域保健・健康増進事業報告)

⑤1歳6カ月児健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

精 検 者 数			R3	R4	R5	R6	R7
	対象者数		48	35	34	35	28
	受診者数		42	34	33	35	27
	受診率(%)		87.5%	97.1%	97.1%	100%	96.4%
	身 体	人数	0	4	3	4	0
		率(%)	0%	11.8%	9.1%	11.4%	0%
	精 神	人数	0	0	0	0	0
		率(%)	0%	0%	0%	0%	0%
	歯 科	受診者数	41	34	33	35	27
		う歯罹患数	0	0	0	0	0
罹患率(%)		0%	0%	0%	0%	0%	

(地域保健・健康増進事業報告)

受診者数が減少しており、1回あたりの対象者が少ない。令和8年度から3歳6カ月健診と同日実施で行う予定。

⑥2歳児歯科健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

	R3	R4	R5	R6	R7
対象者数	51	46	42	34	34
受診者数	40	40	37	34	31
受診率(%)	78.4%	87.0%	88.1%	100%	91.2%
う歯罹患数	0	0	4	0	1
罹患率(%)	0%	0%	10.8%	0%	3.2%

(地域保健・健康増進事業報告)

令和5年に「2歳歯の健康教室」から「2歳児歯科健診」に名称を変更したことで、受診率が上がった。
3歳6ヵ月児健診でのむし歯予防のためにも保護者の意識を高めていく機会としていく。

⑦3歳6ヵ月児健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

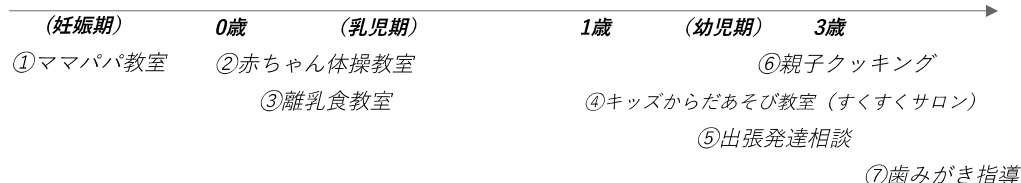
単位：人

		R3	R4	R5	R6	R7
精 検 者 数	対象者数	56	51	49	40	37
	受診者数	52	46	43	39	35
	受診率(%)	92.9%	90.2%	87.8%	97.5%	94.6%
	身 人数	1	1	1	4	5
	体 率(%)	1.9%	2.2%	2.3%	10.3%	14.3%
	精 人数	2	0	0	0	1
	神 率(%)	3.8%	0%	0%	0%	2.9%
	眼 人数	1	5	4	1	5
	耳 人数	2	2	0	0	3
	歯 受診者数	50	46	43	39	35
科	う歯罹患数	5	2	4	5	2
	罹患率(%)	10.0%	4.3%	9.3%	12.8%	5.7%

(地域保健・健康増進事業報告)

3歳6ヵ月児健診では、精密検査となる方が多々ある。最後の健診での精密検査のため、しっかり受診につながるようフォローをしていく。

(8) 健康教室



各時期に保護者の不安の高いテーマや啓発したいテーマを取り上げ教室を開催している。
不安解消とともに保護者同士の交流の場ともなっている。また、支援者側からは、健診後のフォローの場としても役割を果たしている。

①ママパパ教室

平成29年度より、パパクッキングの機会を取り入れたことにより、父同士の交流の場にもなっていた病院で行う教室と異なり、妊娠期から地域とのつながり作りや出産後の子育てのイメージを夫婦でもってもらえる機会としての役割をもたせている。（年間3回）

単位：人

	R2	R3 (2回)	R4	R5	R6(2回)	R7(2回)
参加者数	16	9	15	15	8	12
(うち父親)	5	4	7	7	4	6

※R3 コロナの感染状況により1回中止。

R5年度よりパパクッキングを再開している。開催1回あたり3組ほどで少ないが、個別指導が充実している。

②赤ちゃん体操教室

平成29年度より産前産後サポート事業の一環として開始。作業療法士と保育士が中心となり、発達に応じた体操や遊び、生活に関する情報提供などを行っている。（年間10回） 単位：人

	R3(11回)	R4(11回)	R5(11回)	R6(11回)	R7(11回)
参加者数 (実/延)	30/74	30/112	24/82	27/64	26/89



出生数が減少傾向であるが、満足度の高い教室で参加者数は一定数保たれている。

③離乳食教室

離乳食の作り方を、実演を交えながら説明している。試食を行うことで、子どもの口の動きを見ながら個人にあわせた進め方のアドバイスをを行っている。（年間6回） 単位：人

	R3	R4	R5	R6	R7
前期	13	13	14	12	6
後期	7	13	12	10	7



アレルギーや咀嚼発達に合わせた食事の進め方についての質問も増えており、家庭で実践しやすい内容で説明している。体重測定にて、成長確認の機会となっている。

④キッズからだあそび教室

集団遊びをととして、児の心身の発達やことばの発達を促すとともに、保護者が児の成長を理解し、親子関係の確立を図ることを目的とする。 年間11回 単位：人

年度	R5 (11回)	R6 (11回)	R7(11回)
参加者数 (実/延)	11 / 66	21 / 105	21 / 98

令和5年度より、従来の集団療育教室の参加人数減少のため、一般参加できるようにして実施しており、参加人数は増加している。

⑤出張発達相談

幼稚園・保育園（町外を含む）に在園している児の発達について、就学を見据えた乳幼児の健全な成長発達を支援することを目的とする。

場所	R3	R4	R5	R6	R7
成和保育園	3	6	3	6	6
川西幼稚園	7	4	3	3	3
川西こども園	9	8	5	5	5
その他	—	1	—	1	—

単位：人

健診後や就学前の利用が多く、子どもの状況を把握したうえで、保護者の不安や困り感を聴き、発達支援の方向性を提案している。

⑥親子クッキング

親も調理方法を学び、子ども自身も調理をすることで食への関心を高める良い機会となっている。午前と午後の2部制にして密を避け、感染対策を実施しながら親子単位でクッキングをおこなっている。

対象	R4	R5	R6	R7
3歳児	28組(同伴者12名)/4回	16組(同伴者5名)/2回	36組(同伴者10名)/5回	12組(同伴者2名)/2回
4・5歳児				
小学生	21組(同伴者10名)/3回	29組(同伴者7名)/3回	23組(同伴者6名)/3回	25組(同伴者6名)/3回
パパとクッキング	8組(同伴者4名)/1回	9組(同伴者1名)/1回	6組(同伴者1名)/1回	7組(同伴者2名)/1回

※R1, R2はコロナの感染状況により中止となった日程がある。

参加希望の多い教室。魚料理をメインとした日程もあり、子供が3枚おろしを体験できる。最近では、父親の参加者が増えてきている。



⑦歯みがき指導（幼稚園・保育園・小学校での歯みがき教室）

年齢に合わせてペープサートやスライドを利用して歯の大切さについて伝えた上で、ブラッシング指導を行っている。（各施設年1回）

場所	R3	R4	R5	R6	R7
成和保育園	中止	47	62	44	43
川西幼稚園	98	49	44	26	31
川西こども園	中止	64	55	55	61
川西小学校	中止	66	58	63	71

単位：人

*川西こども園の新規開設はH29.4であるが、歯みがき指導は次年度より開始した。

感染拡大防止のため、染め出しは中止し歯間フロスの話しに変更し実施している。各所属の歯科検診の様子を共有しながら、教室の内容を充実していく。

(9) 産後ケア事業

①母乳相談費用助成事業（アウトリーチ（訪問）型）

産後1年までの産婦が不安要因のひとつの母乳相談について、相談・ケアを受けることができる。（令和7年度から1人2回利用可能）

	R3	R4	R5	R6	R7
人数	8	4	8	10	8

単位：延べ人

②産後ケア事業（通所型・宿泊型）

産後1年までのお母さんとお子さんで、育児に対する不安をお持ちの方などすべての方が産後ケアを受けることができる。助産院への委託にて、実施している。

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
通所型	0	2回/2人	7回/3人	5回/4人	1回/1人	5回/3人
宿泊型	7泊/2人	1泊/1人	0	0	0	0

単位：回数/人

施設が満床のため宿泊型は希望する時期に利用が難しい状況である。令和8年度から委託先助産院を増やし対応していく。

(10) 母子手帳アプリ(母子モ)

スマートフォンで、予防接種の記録や児の成長の記録を残すことができる。

また、川西町の子育て情報を受信することができる。

	R3	R4	R5	R6	R7	単位：人
登録者（実）	101	123	137	152	165	

登録者数は増加傾向で、予防接種の記録・接種忘れ防止や町からのお知らせの受信できるなどの需要がある。引き続きホームページや広報で利用を促す。

(11) 小児科・産婦人科オンライン相談

スマートフォンで小児科医や産婦人科医と無料相談ができる。

	R4	R5	R6	R7	単位：人
登録者（実）	90	106	121	131	
利用者（延）	65	87	82	84	

※R3年11月～R4年3月末の実績

登録者数が増加した。また、相談内容も様々で、利用後のアンケートでは、「また利用したい」と好評を得ている。引き続きホームページや広報で利用を促す。